

# F-wave

藤沢市市民活動支援施設情報誌「エフ・ウェーブ」

## 藤沢の市民活動大交流会 ～市民会館に感謝を！～



2月18日(水) 藤沢市民会館 第1展示集会ホールにて、「藤沢の市民活動大交流会～市民会館に感謝を！～」を開催しました。

藤沢市民会館は1968年10月の開館以来、57年間にわたり市民の文化活動の拠点として利用されてきましたが、老朽化による建て替えのため3月31日をもって休館・再整備を迎えます。

このイベントは長年にわたり市民の発表や交流の場として親しまれてきた市民会館への感謝を共有するとともに、これまで市民活動を担い、支えてきた団体や市民の皆さまに交流やPRの機会を提供する場として企画したもので、平日の午後にも関わらず総勢160名という多くの方にご参加いただきました。

当日は藤沢市市民活動センター長による開会あいさつから始まり、藤沢市 鈴木市長にごあいさつをいただきました。前半はNPOに関する〇×クイズで会場が和やかな雰囲気になりました。武蔵大学社会学部長・粉川氏にご講演いただき、市民活動の現状と今後の協働のあり方について理解を深めました。後半は、登録団体やサポーターを表彰するアワード企画、市民活動団体のPR発表、交流タイムなど、多様な主体がつながる機会となりました。最後は藤沢市市民活動推進機構 理事長の手塚から皆さまへ感謝のあいさつで締めくくられ、六会リトルアンサンブルの演奏のなか、お開きとなりました。(次ページに続く)



## 藤沢の市民活動大交流会 ～市民会館に感謝を！～



講演中

### 話題提供 地域に新しい風を生み出す市民活動とは

話題提供では、藤沢市の市民電子会議室世話人、市民活動推進委員（08からは委員長）を歴任され藤沢の市民活動に大変ご縁のある武蔵大学社会学部長 粉川一郎氏に、『集合して地域社会に「インパクト」を』というタイトルでご講演いただきました。

講演では、日本の向社会的行動の現状と、これからの地域づくりに必要な視点についてお話いただきました。冒頭で「日本は人助けに関して世界で下から2番目」（CAF World Giving Index 2024）というデータが紹介され、ボランティア参加率や寄付文化の低さが指摘されました。歴史的に「困っている人を助けるのは行政の役割」という意識が強いことも背景にあるのではないかとコメントされました。



会場の様子

さらにコロナ禍では自治会・町内会の活動が大きく停滞し、「行事がないのになぜ町内会費を払うのかと言われ大変だった」という声も紹介されました。加えて、少子高齢化により担い手不足が深刻化し、NPOを含む地域団体の人材確保が大きな課題となっています。こうした状況を踏まえ、粉川氏は、1) 地域で積極的に活動する人材の確保、2) 行政・NPO・企業・学校など多様な主体が連携する「協働・共創」の推進という二つの処方箋を提示されました。その指針として紹介された「コレクティブ・インパクト」は、共通の目標設定や成果の共有など五つの要素を備えた協働の枠組みで、成果の可視化が現代に適した考え方であると説明されました。多様な主体が目的を共有し、成果を確認し合いながら協働を進めることが重要であるという結びに、藤沢市の市民活動に新しい風を与えるための大きなヒントをいただきました。

### NPO クイズ

先の話提供以外にも、会場では多彩な企画が行われ、参加者同士の交流が一層深まりました。NPO クイズでは、NPOに関する基礎知識を〇×形式で出題し、最後まで残った30名に参加賞としてクッキーが贈られました。

### アワード企画

アワード企画では、市民活動支援施設の会議室や印刷機などを日頃から活用していただいている湘南ふじさわウォーキング協会、(公社)日本オストミー協会神奈川支部湘南地区グループ、日本語教室「かわせみ」、(一社)すみれ、ギャマノン湘南藤沢グループの計5団体に加え、支援施設を支えてくださっているサポートクラブの40名へ感謝状を贈呈いたしました。



サポーター表彰

### PR タイム・交流タイム

PR タイムとそれに続く交流タイムでは、長後フロンティアプロジェクト、(N) ふじぼけ、(N) 藤沢サンクチュアリ、(N) 湘南DVサポートセンター、(N) 地球市民友の会、藤沢市せつけん推進協議会、Aquarise が活動を紹介し、その後は参加者同士の交流で大いに盛り上がりしました。

### クロージング

NPO 運営相談サポートテラスとチーム FUJISAWA2020 の紹介のあと、藤沢市民活動推進機構 理事長手塚の挨拶で締めくくられました。最後は六会リトルアンサンブルによる演奏の中、あっという間の3時間が幕を閉じました。（記事作成：根岸）



六会リトルアンサンブルによる演奏

## 企画に思いを乗せるコツ

## NPO TIPS

企画書や提案資料などの作成を行う際に、自分たちならではの部分をどう引き出して書面に落とし込むか、についていくつかコツをご紹介します。一般的に企画を立てる際は、「5W1H」といったツールを使って考える方も多いかと思います。日本語で並べると「なぜ」「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」。これらの項目を考え整理することで、具体的にイメージが取れるようになり説明する際に説得力が増すというものです。

市民活動やNPOの方々の相談を受けていると「何を」「どこで」「どのように」といった部分でアイデアや組み立てる力を持っている方が多い印象があります。イベントや様々な企画を実践されていることから、条件面などもあり固めやすい要素なのかもしれません。

ただやはり市民活動において皆さんが大事にされていることは「ミッション（思い）」の達成です。社会課題を解決したい、思い描く未来を実現したい、など活動をスタートしたきっかけが必ずあるはず。

そのきっかけを「なぜ」の部分として掘り下げることで、他にはない独自性がある企画を作る基盤になってきます。

ここからは段階を踏んで企画に思いを乗せていきましょう。

### STEP.1 ミッションを振り返る

団体や活動の目指すビジョン（理想）は何であったのか。定款や規約、また設立趣旨書などを見直して、改めて書き出してみましょう。また、事業やプロジェクトごとの目標がある場合は、仕様書や達成目標を確認してみてください。

### STEP.2 原体験を考えてみる、共有する

ミッションや達成目標を設定する際にあった「きっかけ」。それを感じた出来事が所謂「原体験」になるので、その内容や出来事をエピソードとして書き出しましょう。チーム単位で動いている場合は、各々の考える「原体験」を共有することで、メンバーの企画に対する認識を合わせることに繋がるのでお勧めです。

### STEP.3 「ならでは」の部分落とし込む

「きっかけ」「原体験」は、皆さんの中にしかない大切なそして貴重な要素です。その要素は他の人には真似のできない、企画自体の個性に繋がります。「キラキラしたもの好きだった」「日々の暮らしでのちょっとした悩み事」「こんな場所があればいいな」そんな願望を「なぜ」以外の要素にそれぞれ落とし込んでみましょう。

さて、どうでしょうか。穴埋めのように機械的に考えた企画の要素だったものが、少しずつ自分の言葉に代わってきているはずですよ。

支援施設ではこうした企画をまとめる際のヒアリングやワークを相談対応の中で一緒に実施することもできます。まとめ方や落とし込み方など具体的な実践などはぜひ支援施設までご相談ください。

AIやツールなどが増えてきても皆さんの体験や思いは唯一無二のもの。ぜひ大切に団体や活動の「強み」にしてくださいね。（さ）

## 大交流会を終えて

2026年2月18日、藤沢市市民活動支援施設では、例年のクリスマス交流会に代わり「大交流会」を開催しました。今回は、藤沢市民会館が建て替えによる約5年間の休館予定を踏まえ、市民活動団体の活動や発表の場として長年親しまれてきた同会館を会場としました。

藤沢市民会館は、1968年10月に開館以来57年間、市民文化の醸成を担い、多くの文化公演をはじめ、市民の自主的な活動の舞台として愛され続けてきました。その歩みの中で社会情勢は大きく変化し、経済的利益を第一とする価値観から、社会的価値の創出を重んじる方向へと軸足が移り、情報化社会の進展とともに新たな時代を迎えています。

現在、地域社会が抱える課題も大きく様変わりしています。複数の問題が同時進行し、それぞれが相互に関連し合いながら、分野横断的に重なり合って複雑化・深刻化しています。こうした状況の中では、公的サービスだけで十分に対応することが難しいケースも増えてきました。そこで改めて注目されているのが、市民による自主的・共助的な活動の力です。

今回の大交流会では、基調講演に武蔵大学学部長の粉川一郎氏をお招きしました。粉川氏は藤沢市にゆかりが深く、市民活動、とりわけ協働や評価の分野において豊富な知見をお持ちの方で

す。講演では、近年注目されている「コレクティブ・インパクト」についてお話いただきました。

「コレクティブ・インパクト」は2011年にアメリカで提唱された概念で、行政・企業・NPOなど多様な主体が分野を超えて連携し、複雑な社会課題の解決を目指すアプローチです。従来の単独組織による「アイソレーテッド・インパクト」では対応しきれないほど、現代の課題は大きく、複雑になっています。そのため、異なる立場や強みを持つ主体が意思をもって集い、それぞれの専門性を発揮しながら協働することが求められています。

粉川氏の資料タイトルは「集合して地域社会に『インパクト』を」。ここでいう「集合」とは、一つの組織に統合されることではなく、個々の主体が自立したまま志を共有し、力を持ち寄ることを意味します。多様な組織が計画的に役割を担うことで、点としての支援を面へと広げ、より大きな成果や変化を生み出していく。その可能性と難しさを感じつつも、これからの地域づくりには欠かせない視点であると強く実感する講演でした。

当日は、160名を超える志ある市民の皆さまにご参加いただき、会場は笑顔と熱気に包まれました。大きな節目となる交流会を無事に開催できたこと、心より感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。（て）



講座・イベントの

ごあんない

イベント

日時

■藤沢市役所・駅地下サイネージにてPR動画放映中

2026年2月～4月

■団体の「組む力」協働入門講座

4月18日(土) 14:00～16:00

NEW!

## 支援施設からのお知らせ

### ■藤沢市役所・駅地下サイネージにてPR動画放映中

藤沢駅北口地下通路の広場や藤沢市役所のエレベーターホールなど各所に設置されているデジタルサイネージで、2月から4月の間、登録団体のPR動画が流れています。お近くをお通りの際にはぜひご覧ください。

日時：2月～4月

(毎月、違う動画が流れます)

場所：藤沢市役所エレベーターホール

藤沢駅北口地下通路の広場

主催：市民活動推進センター

市民活動プラザむつあい



### ■団体の「組む力」協働入門講座

今後ますます期待が高まる「協働」をテーマに講座を開催します。本講座は、他団体や行政・企業などと組み、活動の幅を広げる「協働」について事例を交えながら学べる入門講座となります。

日時：2026年4月18日(土) 14:00～16:00

会場：市民活動推進センター 会議室・オンライン

料金：1,000円 ※学生・18歳未満は無料

定員：会場 20名

オンライン 40名

対象：ボランティアや市民活動・地域活動に関わっている方、興味のある方

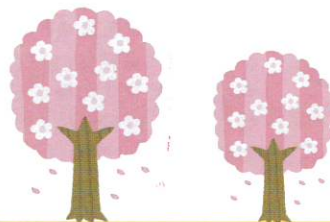
講師：藤沢市市民活動支援施設 協働コーディネーター

主催：市民活動推進センター



### ■4月に新年度を迎える登録団体のみなさまへ

4月に新年度を迎える登録団体のみなさまへ、4月の郵送時に「更新手続き書類」を同封いたします。更新手続きの締め切りは2026年7月末日です。



発行：藤沢市市民活動支援施設

本館：市民活動推進センター

開館時間 9:00～22:00 火曜休館

※日・祝は9:00～20:00

〒251-0052

神奈川県藤沢市藤沢1031アーバンセンター藤沢2F

TEL: 0466-54-4510 FAX: 0466-54-4516

Eメール: f-npoc@shonanfujisawa.com



分館：市民活動プラザむつあい

開館時間 9:00～17:00 月曜休館

〒252-0813

神奈川県藤沢市亀井野4-8-1 六会市民センター2階

TEL&FAX: 0466-81-0222

Eメール: f-npoplaza@shonanfujisawa.com

編集：認定NPO法人 藤沢市市民活動推進機構（藤沢市市民活動支援施設 指定管理団体）

※この情報誌は、サポートクラブのメンバーのご協力により、皆さまのお手元に届いております。サポーターも随時募集中です！